

荒井学長就任

令和3年4月1日付で、荒井優名誉教授が、鳥取看護大学新学長に就任しました。荒井先生は、平成5年に鳥取女子短期大学(当時)へ赴任されました。専門は、宗教哲学、宗教の人間学。平成27年4月、鳥取看護大学開学と同時に同大学の教授として着任され、平成31年4月からは鳥取看護大学・鳥取短期大学入試広報アドバイザーを務められました。

近田学長退任

鳥取看護大学開学以来6年間、学長としてご尽力いただいた近田敬子先生が、令和3年3月をもって学長を退任されました。引き続き大学院の特任教授として本学の教育に携わっていただいています。

近田先生 瑞宝中綬章



山田理事長(右)と荒井学長(左)も祝福しました。

近田敬子先生(鳥取看護大学名誉学長)が、令和3年春の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。近田先生は、鳥取看護大学の開学に向けた設置準備室に顧問として就任され、開学後は初代学長として基盤づくりにご尽力いただきました。長年の教育研究活動においては、兵庫県立看護大学(現 兵庫県立大学)教授や、園田女子大学教授のほか兵庫県看護協会会長などを歴任されました。また、阪神・淡路大震災を契機に兵庫県下で普及された「まちの保健室」の活動は、鳥取看護大学の教育・地域貢献にも生かされており、現在では鳥取県でも広く認知されています。こうした、看護分野の教育研究に加え多大な社会貢献により、この度の栄えある受賞となりました。

◆交流センターが完成し、グローバルセンターが移転しました!◆



令和3年3月末、本法人設立(鳥取短期大学開学)50周年記念事業として、交流センターが完成しました。館内には、1階にグローバルセンター、保健室、学生相談室「ここはな」、コンビニ、2階に約180席の中講義室、ラーニングcommons(多様な学びの空間)、3階にキャリア支援室、学びスペース「ひだまり」、会議室、応接室を配置しました。学生や教職員だけでなく、地域の皆さまにも気軽に立ち寄りいただける施設をめざして運営していきます。

◆令和3年度 鳥取看護大学・鳥取短期大学地域研究・活動推進事業助成金◆

当センターでは、鳥取看護大学・鳥取短期大学の建学の精神である「地域に貢献する人材の育成」に基づき、両大学の地域研究・活動をさらに促進する観点から、地域研究・活動推進事業助成金制度を設けています。今年度採択された研究は、次の9件です。

今年度採択された研究テーマ	
ウエルネスウォーク参加による身体的・心理的効果の検証	
多文化共生におけるコミュニケーションツールとしての「ふみふみカルタ」の試みについて	
鳥取県における認知症の人を介護する家族等への介護負担に関する調査 ～介護者の睡眠に着目して～	
A看護大学学生の高齢者アセスメントの特徴 ～高齢者イメージと視線軌跡との関係に焦点をあてて～	
郷土文化資源の顕彰と観光資源への転用	日系人向け人材供給業者の新たな機能
6次産業化における経済活動の多角化の方向性に関する一考察 ～マーケティングの視点から～	
鳥取県における非正規司書の実態と働き方の意識	重要伝統的建造物群保存地区の役割と課題の考察

◆「とっとりプラットフォーム5+α」共同FD・SD研修会◆

【特別講演会】のご案内

- テーマ・講師:「COVID-19パンデミックの行く末を考える」鳥取看護大学 教授 荒川満枝
- 開催日時:令和3年9月17日(金)～9月30日(木)
- 参加方法:YouTubeにて限定配信
- 申込み: <https://bit.ly/34bLnTa>または、QRコードより9月16日(木)までにお申込みください。



グローバルセンターをご利用ください

鳥取看護大学・鳥取短期大学では、個人・団体による大学見学会、講演会講師の依頼、大学の施設利用や教員の専門分野に関するご相談などに随時対応しています。

詳しくはグローバルセンターまでお問い合わせください。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854
TEL:0858-27-0107 FAX:0858-26-9138 E-mail:glocal@cygnus.ac.jp

<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36



鳥取看護大学 グローバルセンターだより

鳥取短期大学 Glocal Center

第9号 2021.9.16発行

それでも前を向く、地域とともに

突然襲ってきたコロナ禍に翻弄されながらも、新型コロナワクチンの職域接種にいち早く名乗りを上げるなど、私たちは前を向いて歩みを止めません。様々な集まりは中止や規模の縮小を余儀なくされますが、諦めることなく代案を検討し続けます。

地域の皆さんのために私たちの大学ができることを考え続ける、そんな50周年を迎えています。一緒に前を向いて進んでいきましょう。地域とともに!

新型コロナワクチン職域接種の実施



本法人はこのほど、新型コロナワクチンの職域接種団体として認可され、1回目の接種を7月3日、4日、10日、2回目を7月31日、8月1日、7日の日程で職域接種を実施しました。対象は、接種を希望する鳥取看護大学、鳥取短期大学の学生、教職員、地域の方々も含め1,100人です。

まだまだ新型コロナウイルス感染症は猛威を振るっていますが、このワクチン接種により、学生たちの学びや地域の皆さんの活動が、少しでもスムーズになることを期待しています。引き続き感染対策をとりながら、ニューノーマルの世界へ向け前進していきたいと思えます。

鳥取県と災害時における大学施設等の提供に関する協定を締結

6月5日(土)、本法人は鳥取県と災害時における大学施設等の提供に関する協定を締結しました。これは、天神川水系が氾濫し、鳥取県中部総合事務所庁舎での業務継続が困難になった場合、事務所の機能を交流センターの中講義室や会議室等へ移転し業務が継続できるよう連携するものです。本法人の創立50周年を記念して新設した交流センターの稼働を機に、協定締結の運びとなりました。

挨拶で平井知事は、「水害が発生した場合、最も安全な丘の上にある藤田学院で県民サービスを絶えることなく行えることに感謝する」と述べられ、山田理事長は、「『地域とともに』の法人の理念のもと、地域の役に立つことは何でもしたいという思いである。もしも災害が発生した場合は一緒に助け合っていきたい」と話しました。



学生へのご支援、ありがとうございます

長引くコロナ禍の中、今年もまた学生たちへ、温かいお心遣いをいただきました。いずれも東伯郡琴浦町にある農事組合法人やまかわ様から、お米「縁結び」をなんと150キロと、株式会社ヘイセイ様から「あご入り鰹ふりだし」を、コロナ禍の中、鳥取県で修学されている学生の皆さんにお腹一杯食べてがんばって欲しいと頂戴しました。

やまかわの代表理事那須典久様から直接お米を受け取った加登脇大和学友会会長は、「皆さんも大変な時に学生のことを考えてくださりありがとうございます。」と御礼の言葉を述べました。いただいたお米やおだしを使って、本学の食堂「とりたんキッチン」でピラフやどんどろけ飯等を作り、両大学の学生たちに無料で配布しました。学生たちからは「食費を削っていたのでとても助かる」「すごくおいしい」等の声がたくさん聞かれました。本当にありがとうございました。



～学びを深める～

コレクション宅配便およびファシリテーター養成講座を開催しました



とっとりプラットフォーム5+αでは、今年度より新たに課題12「県立美術館のサポート・活用」を設定し、「美術ファシリテーターの養成」「美術館ワールドの活用支援」「美術館のサポート」に取り組んでいます。令和3年度前期には、国際文化交流学科1年生の必修科目「交流とホスピタリティ」と連携し、3回にわたり「対話型鑑賞」に関する授業を開講しました。

第1回目は、6月14日(月)に鳥取県立博物館主催「学校&地域でアート『コレクション宅配便』」を開催し、県立博物館所蔵の美術品を鑑賞しました。学芸員の方々にファシリテーションをしていただき、学生たちは「対話型鑑賞」を初めて体験しました。

第2回目は、6月17日(木)にファシリテーター養成講座「アート・コミュニケーションのためのスキルを磨くー感性を育てたいあなたへー」を開催し、ナラティブコミュニケーション教育研究所長 佐藤敬子氏に講演いただきました。当日は、オンライン視聴も含め、学生や地域の方々約60名が参加し、ときおり笑い声がもれる和やかな雰囲気での講演会となりました。

第3回目は、6月29日(火)に学内の美術作品を巡りながら、ファシリテーション体験を行いました。はじめに学芸員の方からファシリテーションについて学んだ後、グループに分かれ、学生がファシリテーター役となる「対話型鑑賞」に挑戦しました。最初は緊張していた学生も、グループのメンバーの言葉にしっかり耳を傾けながら、作品の感想を引き出していました。

学生たちは「さまざまな人の話を聞くことで以前と違った見方をする事ができ、視野が広がると感じた」「感性が豊かであれば、人生が豊かになりいろいろなことに活かせるので、今ある感性をよりよくしたいと思った」など、対話型鑑賞をとおり、コミュニケーションのあり方について理解を深めました。

7月12日(月)から28日(水)まで、交流センターロビーにてユニセフ(UNICEF:国連児童基金)の活動を紹介するパネルや支援グッズなどの展示を行いました。

ユニセフ活動の紹介



ユニセフは、すべての子どもの命と権利を守るために、現在約190の国や地域で活動しています。県内では、ユニセフの支援活動を地域で行い、ユニセフのネットワークを広げていくための活動拠点として2013年に鳥取県ユニセフ協会が設立され、2020年には同協会



学生部(TORICEF)が設置されるなど学生の積極的な参加も進んでいます。本学でも講義の中で子どもの権利条約やSDGsなどについて取り上げ、学生にとって文化や価値観の多様性を理解するとともに学びの視野を広げるきっかけになりました。

とっとりプラットフォーム5+α連携講座

「鳥取県立美術館に向けて～建築の公共性を考える～」を開講

6月25日(金)、令和7年春に開館予定の鳥取県立美術館を設計された横総合計画事務所 取締役副所長の長谷川龍友氏にご講演いただき、鳥取短期大学の学生のほか県内の他大学等へも配信し、学生や県民ら約200人が聴講しました。

講演では、建築の役割、公共性の実現方法などについて、長谷川氏がこれまでに手掛けられた公共施設や公園などの建築を例にお話いただきました。

また、鳥取県立美術館について、デザイン画などを用いて「気軽に立ち寄ることができる“敷居の低さ”と県の施設としての“品格”を備えた美術館」と紹介されました。学生からは「建築士を目指すものとして、公共性や価値ある建築物について深く考えさせられた」等の感想が寄せられました。



地域とともに!

～学生のボランティア活動紹介～

長引くコロナ禍ではありますが、学生たちは、ボランティアなどに参加し、自主的な活動を続けています。

鳥取県男女共同参画センター よりん彩の「子ども室を楽しい空間にしよう!」

4月28日(水)、鳥取県男女共同参画センター「よりん彩」設立20周年を機に、同センター子ども室がリニューアルされることにあわせて、壁面制作のボランティア活動を行いました。

さまざまな考えを巡らせ、「子どもも保護者も楽しめるように」の思いをのせ、雨模様だった天気が次第に晴れ渡っていく物語を、幅6mの壁の中に表現しました。その成果は、朝日新聞(5月8日)・日本海新聞(5月14日)にも掲載されました。

この壁面によって、利用する親子の笑顔が自然と引き出されていけば嬉しいです。



上灘コミュニティセンター主催イベント「GOTOくらしリアルで倉吉遊びたい」

5月29日(土)、令和7年春に開館する県立美術館と白壁土蔵群の回遊性を高めつつ、地域の魅力を再発見する試みとして行われた街歩きイベントに参加しました。



事前に数回行われた打ち合わせにもWEBで参加し、謎解きクイズなどの作成にも携わることで、倉吉の中のおすすめの場所を歩いて回ってもらおう仕掛けづくりを学生目線で提案しました。また、企画することの楽しさをはじめ、人との関わり方を学べたことはとても貴重な経験となり、なんと、6月27日(土)には、山陰放送の「宮川大助・花子のハテはてな?」でもとりあげられました。



NPO法人未来主催イベント「第20回SUN-IN未来ウォーク」



6月6日(日)、鳥取県中部を舞台にしたウォーキング大会「第20回SUN-IN未来ウォーク」に、司会や運営補助のボランティアとして参加しました。

20回目の開催となる今回は疫病退散も祈念した大会であり、「感染予防で安心安全なウォーキングリゾートとっとり ウォーキングでコロナに負けない体力づくり!」をテーマに、参加は山陰地方の方に限定して行われました。

SUN-IN未来ウォークには毎年たくさんのウォーカーが参加しており、学生にとって、ボランティアとおした交流の場になっています。

来年はさらにたくさんの学生が参加し、中部をもっと盛り上げていける大会となるよう願っています。



鳥取短期大学絃研究生が本学院に因んだオリジナル作品を制作しました

この度、鳥取短期大学絃研究室では、本学院の創立50周年に際して、何か記念になるものを作製したいと考え、「星座シグナス(学章)」と「マスコットキャラクターとりたん」の絵柄を倉吉絃で織り、マスクとコースターに仕上げられました。



研究生は自己の制作活動と並行してこれらの作業に取り組み、型紙づくりからくり等を分担して、4ヶ月をかけた丹精込めて作り上げられました。そして、出来上がったコースターのうち20枚を本学院に寄贈され、マスクは希望者に実費で販売されています。手織りのため、一つとして同じものはなく、味わい深い作品となっています。

これからは、このコースターが鳥取短期大学のお茶のおもてなし時に活躍することになるかもしれません。

